

# 京都伏見：歴史の森と水辺を歩く

(第90回くらわん会 2003/12/02)

季節にしては暖かく、曇り空で時々太陽が顔を出すそんな師走の京都伏見、リュックを背負い帽子をかぶった人の長い列が御陵の森に向かい、あるいは水路沿いを歩いた。本年最多に並ぶ144人が丹波橋駅前の京都市立呉竹文化センター前広場に集合した。

12月とあって原会長から挨拶の後、来年度の計画について運営の考え方、注意事項などの説明がある。高浜世話人より今回のコースについて安全面を含めて詳しい説明がある。

国道24号線を陸橋で越えて桓武天皇柏原陵を目指す。登り坂を行くとほどなく伏見桃山の森にさしかかり、平安遷都にゆかりの第50代桓武天皇柏原陵に到着し、お参りをする。このころには体が温まり上着を脱ぎ始める人も多くなる。続いて、伏見桃山城に向かう。この城は1594年豊臣秀吉が築城した伏見城を1964年に再建復元したものであるが、併設のレジャー施設と共に入場者減に抗しきれず本年1月に閉鎖された。紅葉の間から垣間見える天守閣は、古のその変化の激しさを写すかのように雄雄しくも何か物悲しい。

北堀公園は京都府の体育館と共に遺構の堀を利用して遊歩道が整備され緑の多い公園となっており、緑の中に紅葉を求めつつ一周する。来た道を引き返し鬱蒼と茂った森の中を進み、桃山御陵参道に出る。一行は広い参道一面に敷き詰められた玉砂利の上を幅いっぱい広がって伏見桃山陵へと進む。道の両側からせまる杉の大木が、皆の気持ちを厳かにさせる。玉砂利を踏む音は人の健康に良い作用をすると言われている。よく手入れされ、東京遷都にかかわりの深い第122代明治天皇の御陵に各々帽子をとって参拝する。御陵の前からは、宇治川を挟んで住宅地として開発が進んだ山城平野が広く見渡せる。小休止の後、坂を下り伏見桃山東陵にお参りし、苔むした参道を下る。

少しの間京都外環状道路を進み、すぐに山科川の土手に出る。ここからはまた歩行者天国、しばらくすると宇治川との合流地点に出て広く開けた

本年最多に並ぶ百四十四人が丹波橋駅前の京都市立呉竹文化センター前広場に集合



国道24号線を越えて、登り坂を行くとほどなく伏見桃山の森にさしかかり、桓武天皇柏原陵に到着



再建復元した伏見桃山城は併設のレジャー施設と共に本年1月に閉鎖、紅葉の間から垣間見える天守閣



伏見城の堀跡を改造し、体育館や遊歩道がある北堀公園に到着







伏見城の唯一の痕跡、遺構の堀を公道にして周囲に約千米のせせらぎの道がある



北堀公園のせせらぎの道を一周、紅葉や山茶花が美しかった



一五九四年豊臣秀吉が築城した伏見城を一九六四年に再建復元した伏見桃山城の横を通って参道に向かう



参道一面に敷き詰められた玉砂利の上を伏見桃山陵へと進む、両側からせまる杉の大きさが驚かす

眺めを楽しみながら歩みを進める。宇治川の、観光用三十石船も係留されている川原に降りて観月橋の下をくぐる。伏見は、昔治水や舟運のために使われた水路が多い。最初に入ったのは濠川の支流京橋川、流れの横の細い道を一列になり長い列を作って進む。水辺には近所の人たちが思い思いに植えた小木、草花があり、観光用の十石舟も係留されていて心を和ませてくれる。

境内の紅葉の美しい長建寺横から街に出て12時半過ぎにやっと昼食場所の伏見港公園にたどり着く。今回の前半はリーダーの予告通り、歩行を楽しみながらもかなりの距離を稼いだように思えた。真黄色に色づいたイチヨウや紅葉を眺めながらの昼食となった。伏見港は戦後も石炭の運搬等に使われていたが陸運の発達につれて使われなくなり、1994年開港400年を記念して、かつての港は公園として整備された。

午後も元気良く出発、濠川沿いを進む。伏見港のやや広がった水面は、鴨が泳いでおり橋が影を映している。水路は安土桃山時代の豪商、角倉了以が鴨川の治水と舟運のために開鑿したもので、その記念碑が京橋川との分流地点に建てられている。京橋川の川沿いを進むが、水面に移る柳、酒蔵、橋などがなんとも言えない情緒をかもし出している。

竜馬通りに出て、阪本竜馬の定宿、寺田屋騒動で有名な、その寺田屋を横目に見ながらカッパカントリーへと向かった。黄桜とカッパで知られるここは、カッパ記念館、売店、酒作りの器具の展示などもあり、見学と買い物を楽しんだ。お正月用には少し早いだろうか？お酒、酒粕などを求める会員の列が出来ていた。

大倉記念館前で解散、無事今年のくらわん会を終えた。お疲れ様でした。来年も、さらに楽しく歩きましょう！！

杉浦義次記





御陵の前からは、宇治川を挟んで住宅地として開発が進んだ山城平野が広く見渡せる



東京遷都にかかわりの深い第一二二代明治天皇の御陵に各々帽子をとって参拝



京都外環状道路を進み桃山南口から山科川の土手に出て、しばらく行くと宇治川との合流地点



アスファルトに苔むしたゆったりとした坂の参道を京都外環状道路に向かって下る



宇治川の、観光用三十石船も係留されている川原に降りて観月橋の下をくぐる



開けた眺めを楽しみながら歩を進めると観月橋に着く、岸に舟遊びの屋形船が係留されている



長建寺は真言宗醍醐派の寺院、「島の弁天さん」として親しまれており、本尊は八臂の弁財天



最初に入ったのは濠川の支流京橋川、流れの横の細い道を一列になり長い列を作って進む





伏見港公園で真黄色に色ついたイチヨウや紅葉を眺めながらの昼食

隣接する水辺空間が「伏見みなと公園」として生まれ変わり三十石舟などが復元されている



鴨川左岸を南流してきた琵琶湖疏水・鴨川運河が流れる濠川沿いに行く

京橋川の川沿いを進むが、水面に移る柳、酒蔵、橋などがなんとも言えない情緒をかもし出している



京橋町と表町の境に架かる「京橋」たもとには川港ふう親水護岸になっていて灯籠が並ぶ

坂本電馬の定宿で寺田屋騒動の寺田屋を横目に見ながら黄桜に向かう



黄桜酒造の宣伝漫画「カッパ」で知られるここは「カッパ記念館」

月桂冠大倉記念館前で解散、無事本年のくらわん会を終える







＜行程＞

京阪丹波橋駅⇒桓武天皇柏原陵⇒伏見桃山城⇒北堀公園（せせらぎの道一周）⇒伏見桃山陵⇒観月橋⇒伏見港公園（昼食）⇒竜馬通り⇒カップカントリー⇒大倉記念館前（解散）⇒京阪中書島駅 約 8.5 km

2003年12月02日（火） 第90回例会 144名参加